令和５年１１月２４日

立教186年

特別号

第614・615合併号

宇（うに）仁

発行所
天理教宇仁大教会
〒677-0015 西脇市西脇770-4
電話 0795(22)4066番
FAX 0795(22)4072番
unigrandchurch@yahoo.co.jp

大教会創立百三十周年記念大会　特集

天理教宇仁大教会 創立130周年記念大会 立教186年(令和5年)10月29日

参拝御礼

拝啓　皆様方におかれましては日々たすけ一条の上にご奔走のことと存じます。

さて、大教会「創立百　十周年記念大会」におきましては、天候にも恵まれ、盛会裏に執り行われました。これはひとえに皆様方の温かいご支援の賜と、厚く感謝申し上げます。

この度の大会を契機に、宇仁につながるお互い　手　つになって、年祭活動にさらに拍車をかけさせていただきたいと存じます。

誠に有り難うございました。重ねて御礼申し上げます。

敬具

天理教宇仁大教会長　神田美香子

実行委員会　藤原　福雄

大教会創立百三十周年記念大会記念講話（要旨）

松村登美和世話人先生

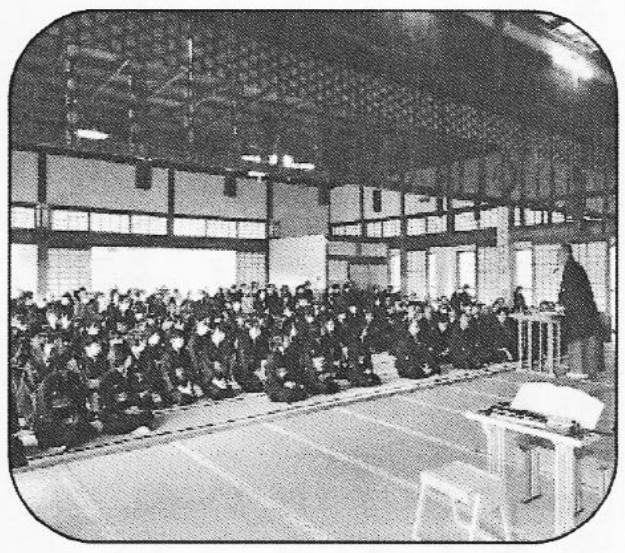
皆様方には日頃は、お道の御用の上に、また、教会の活動の上に、熱心におつとめくださいますこと、誠にありがとうございます。今日はこうしてたくさんの方がお集まり下さって、宇仁大教会創立百　十周年記念大会を賑やかにおつとめ下さいましたこと、誠にうれしく思います。本日は誠におめでとうございます。お時間を頂きましたので、少しお話をさせて頂きたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

教会のこうした創立の記念大会というのは、教会にとっての誕生祝いのようなものだと思います。教会ができて百一十年。ただ、そうしたお誕生日でありますけれども、ただお祝いをするだけで終わってしまっては、少しもったいないような気がいたします。記念っていうのは、記すに念と書きますね。この念という字ですが、おもうというふうにも読みます。記念というのは「思いを記す」ということであると思うのですね。何の思いを記すかというと、創立記念であれば、教会の創立のときの思いをもう　回、新たに胸に記し直す。そこに意味があるのじゃないかなというふうに思います。よくお道では、元一日をたずねるという言い方をします。たずねるというのは、これを漢字で書く時は、温度の温と書きます。これを辞書で調べると、復習をする、よみがえらせるっていう意味なのだそうです。私も知らなかったのですが、元一日をたずねるっていうのは元　日の日をよみがえらせる。その時の気持ちであったり、様子であったりをよみがえらせるということが、元　日を温ねるということであるのだと思います。この宇仁大教会の創立百　十周年、その元一日を温ねるということは、この名称が、お許しを戴いた時の、その当時の先生方の、先輩方の気持ちをよみがえらせるということであるだと思うのです。今日、祭文で会長さんが、先人のその教会ができたとき、白熱の布教でというふうにおっしゃって下さったと思います。その気持ちをもう一回、今の時代に、我々がよみがえらせる、記しなおすということが、今日の日の大切な意味じゃないかなというふうに思います。

今日のこのパンフレット。私も頂戴をしたのですが、これを読ませて頂きますと、略史が書いてありました。明治　十六年五月一　日に宇仁出張所設置というふうに書かれていますが、その前、明治　十　年に山田組真明講第四号と呼ばれる、そんなように書いてあります。兵神大教会部内の講社として始まった日があるわけでありますが、その時から、この教会になるまでの間、実は天理教事典というのがあって、その事典には、各大教会の教会史が全部載っているのですが、それをちょっと読ませて頂きました。そうすると、明治　十　年から　十六年の間の部分を読みますと、ある部分にこう書いてありました。『急激な教えの浸透は、ついに村人たちの神経をいらだたせ、村民一体の信仰反対という事態を巻き起こした』と書いてありました。これ、今日の祭文聞かせて頂きながら、それだけの白熱の気持ちがあって、その結果、周りからは、そういう状況になっていったのだろうな。その中で、この教会の名称を戴くにあたって、おさしづを何度か戴かれています。そのおさしづの一つが天理教教会史に載っていました。その　つ、明治一　十五年の五月　日に戴かれたおさしづに、なかなか名称が戴けなかった中で『　度、　度、　度、　致の理が伸びる』という部分がありました。　度、　度、　度、　致の理が伸びる。何度もお願いをするけれども、なかなか認可が下りない。そういう中で、　致

の理、みんなの心が一つになれば、ご守護が頂ける。そうしたみんなの気持ちが　致をすれば、一度、二度、　度、そして理が伸びる。このおさしづを戴かれて、ちょうど　年後の五月一日に、宇仁出張所の認可を戴いていらっしゃるのですね。そうした元一日の日、白熱の布教があって、その中でいろいろ難しいこともあったと思います。教会の中で、当然そういう時代はいろいろなことが起きてきますから。難しいところもあったが、その中で心を揃えてどういうところに神様のご守護を頂けたのか。そういう中を通って、お互いは今、こうしているわけであります。この我々の生活、教会生活であったり、普段の、教会だけじゃなくそれぞれの家庭の中でも、そうしたことが起きる中で、当時の先生方が一生懸命、神様目標（めどう）に通ってこられた、心一つにという気持ちで、今またここから仕切って通らせて頂く、仕切り直して通らせて頂く。それが今日のこの記念大会をつとめる私たちの気持ち、それを親神様はおそらく受け取って下さるのじゃないかなというふうに思います。

その教会が設立されたということですが、教会というのは、そもそもどういうところなのか。教会とはなんぞや？ということが天理教教典に書かれています。『教会は神一条の理を伝えるところであり、たすけ一条の取り次ぎ場所である』と書いてあります。教会というのは、神様の教えを伝えるところ、そしておたすけをするところ、これが教会であります。この教会を百一十年前に先輩方が創ってくださったわけであります。今月十月は天理教の立教の月であります。天理教の立教というのは、親神様が初めて教祖のお口を通して、お道の教えを教えて下さったところから始まります。そして日前、おぢばの秋季大祭の祭典講話を真柱様がおつとめくださいました。その真柱様のお話の中で、十月　十六日のことをお話になって、こういうふうにおっしゃいました。親神様は人間というものを創って、その陽気ぐらしをするのを見て、陽気ぐらしをさせてその姿を見て、神様も共に楽しみたいと思われた。神様が人間を創ってくださったのは、人間が陽気ぐらしをする様子を見て楽しむ。ところが、長い年月の間に人間は心の使い誤りから我が身勝手な欲のほこりにまみれて、苦しみ悩みの多い世の中を生きなければならなくなった。そうおっしゃいました。そして、これではならんと、親神様は教祖をやしろとお定めになり、陽気ぐらしのできる人間となれるよう、心の入れ替え方を、お教え下された。そういうお話をして下さいました。親神様は人間を創った。でも実際には人間は陽気ぐらしができていません。だから、その心のほこりを払って心の入れ替えをさせるために、教祖をやしろとして、この教えを始めて下さったというわけであります。そして、さっき教典の話をしましたが、教会というのは、その神　条の理を伝えるところで、たすけ　条の取り次ぎをする場所、親神様が教えて下さったほこりの話であったり、どうやったらほこりが取れるのか、陽気ぐらしができるのか、教祖を通して親神様が教えて下さいましたが、それを伝えていくのが教会の役割だということであります。我々それぞれ教会に所属をして、教会で、お道の御用をさせて頂いています。そこで今、こうして百一十周年の折りに改めて、当時、先生方がそうやって本気で神様の話を人に伝えようと思った気持ちを、今、自分が実行する。そうしたことをお互い誓いたいと思います。



これも今日、祭文で会長さんが奏上下さいましたが、今、お道は教祖百四十年祭に向けての年千日の年祭活動の真っ只中であります。去年の十月に諭達

第四号を出して頂きました。その諭達に我々ようぼくとしてのつとめ、年祭活動の中で具体的に何をしたらいいのかということを真柱様は示して下さいました。それが、『よふぼくは進んで教会に足を運び、日頃からひのきしんに励み、家庭や職場など身近なところからにをいがけを心がけよう。身上事情で悩む人々には親身に寄り添い、おつとめで治まりを願い、病む者にはおさづけを取り次ぎ、真にたすかる道があることを伝えよう。親神様は真実の心を受け取って自由のご守護をお見せ下される』そういう部分があります。よふぼくは進んで教会にまず足を運ぶということであります。自分自身が教会に足を運ぶ。教会に所属するようぼくの皆さんであれば、それぞれの教会に参拝に行く。それぞれの教会の会長さんであったり、その家族の方は、自分の教会はもちろん、そこで御用をするわけですが、教会を預かる人間の育てる場というのは、自分の教会もさることながら、やはり上級の教会であると思います。上級の教会、また大教会に足を運んで、そして神様の理を頂く。神様の話を人から聞かせていただく。そうした中で自分が育っていくということであります。

（中略）

先程、一致の理が伸びると言いました。年祭活動の中で頂いたおさしづの　つに、『皆、心一つの心に成りてくれ。一つに成れば強いもの』というおさしづがあります。年祭をつとめる中で、皆の心を　つにしなさい、そうしたら神様が大きく働いて下さると言うことであります。教会のおたすけということ、教祖の道具衆として、我々はおたすけを進めていくわけですが、教会というのは、そこにつながるみんなで盛り立てていく場所であると思います。会長さんが一人で頑張っていても、なかなか、それは一人の力でありますが、教会にいる人それぞれが何かできることがあると思います。そうした我々　人一人が、教会の中で、教祖の道具衆として、人が心のほこりを払って、陽気ぐらしに心が切り替えられるような、そうした教会のたすけ条の御用、それぞれが何か役割を果たしてもらって、この一年間、つとめさせて頂く。　年間だけじゃないですが、これからもつとめさせて頂く。特にこの年祭活動というのは、今までよりも少しでも成人をして、教祖に喜んで頂こうというのが意義であります。ですから、教祖の年祭活動っていうのは、教祖の年祭当日に参拝をさせて頂くことが年祭活動ではありません。それは年祭を参拝するということであって、年祭活動というのはそこまでの　年間、今までの自分よりも少しでも成人できるように、　生懸命つとめる。その結果、今までよりも成人をする、成長する、その姿を、教祖の年祭の日にご覧頂いて、教祖に安心をして頂くのが年祭活動であります。あとほぼ　年と　ヶ月後が、教祖の年祭であります。成長というのは、今できることをそのまま続けていても、それは成長とはいわないと思うのですね。現状維持であります。成長というからには今自分が出来ることから、何か継ぎ足す姿、今までではやってなかったけれども、今はできる。そうした事を出来るようになるのが、成長、成人でありますから、あと　年、今日こうして記念祭に向けて、このスローガン「いつも笑顔でたすけの輪を広げよう」という合言葉で、今日の日まで、おつとめ下さってきたと思います。ここで、今までの頑張ってきた気持ちを、今度は　年後の教祖の年祭に向けて、今までよりも何か追加して成長して教祖に喜んで頂けるように、お互いにつとめさせて頂きたいと思います。では、これで（今日の）お話させて頂きます。本日は誠におめでとうございました。

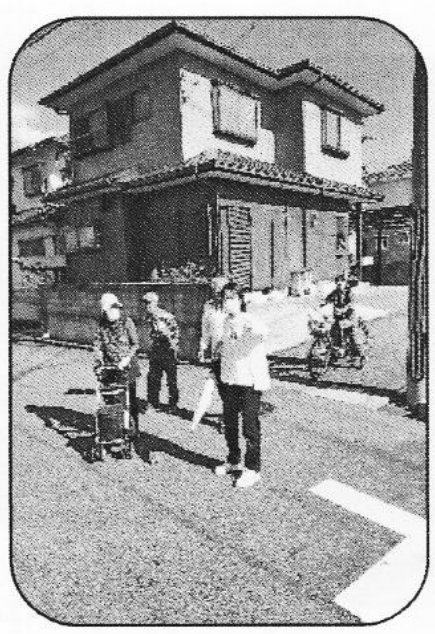
創立百三十周年 記念大会 祭文

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に
天理教宇仁大教会　神田美香子
慎んで申し上げます
親神様にはこの世人間をお創り下されてより永の年限陽気ぐらし世界の実現を目指しお導きお仕込み下さりお守りくださいます御慈愛の程只々勿体なく感謝のほかございません
私共は届かぬながらもご恩報しを念しつつ　日々をつとめさせて頂いておりますが　当教会播州加西宇仁郷の地に明治二十六年五月二日尊き名称の理のお許しを頂き　初代を始め先人たちの白熱の布教により道は広がり昭和四十四年には社大教会から分離陞級宇仁大教会となりその後四十六年に現在地へと移転して参りました　爾来永の年月変わることなき御守護と尽きせぬ親心のまに〳〵お連れ通り頂き誠に有り難く勿体ない限りでございます
本日　世話人　松村登美和先生のご臨席を賜り創立百三十周年記念大会を執り行わせて頂きます　御前には今日の日を待ちわびて寄り集いました道の子供達が心一つに座りづとめ　てをどりを陽気につとめて一層の成人をお誓い申し上げる状をもご覧下さいまして親神様教祖にもお勇み下さいますようお願い申し上げます
只今は教祖百四十年祭三年千日の旬にあり昨年十月にお示し下された「諭達第四号」の精神を旨として　にをいがけ　おたすけに勇ませて頂き教祖にお喜び頂ける心の成人につとめさせて頂く所存でございます
何卒　親神様には今日を吉祥に教祖百四十年祭に向かって更なる成人の歩みを誓う私共の心の誠をお見定め下さいましてふしから芽が出る御守護をお見せ下さいますよう思し召し下さる陽気ぐらしの世の状に一日も早く立て替わりますようお導きお連れ通りの程を一同と共に慎んで御願い申し上げます

『教祖と歩む三年千日』 教会布教実動報告

◎楠谷分教会会場
布教日　八月十日
参加者　名
会場　教会周辺
内容　戸別訪問・ポスティング
所感　厳しい暑さの中、参加して下さる人は無く会長夫妻のみで巡らせて頂きました。戸別訪問は小数軒であとはポスティングです。足腰が悪い私は坂道や階段のあるお宅は素通りですが、リーフレットを快く受け取って下さる方もありました。しかし、余り手応えは無かったです。

◎神福分教会会場
布教日　九月八日
参加者　四名
会場　教会周辺
内容　ポスティング
所感　秋晴れ、一時間余り、月次祭の午後、村内全軒ポスティング

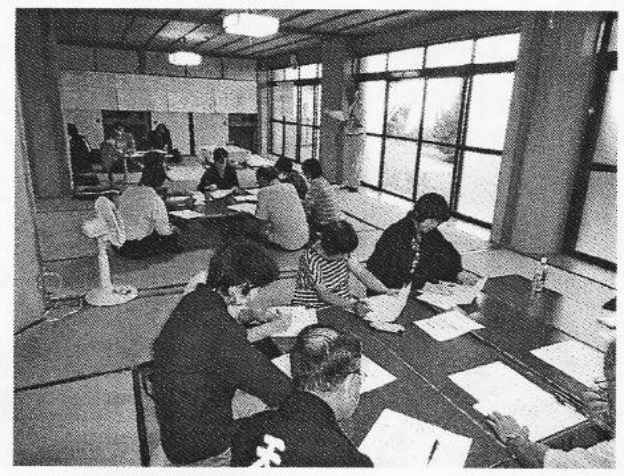


◎福重分教会会場
布教日　九月一十五日
参加者　一名
会場　教会周辺
内容　ポスティング
所感　天気の良い中、ポスティングに歩かせて頂きました。

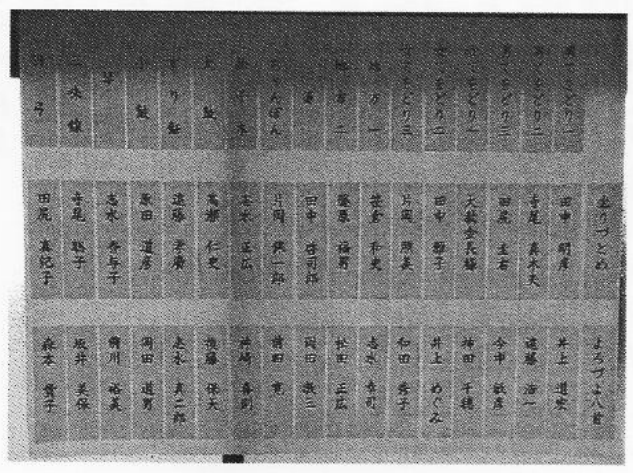
◎西津萬分教会会場
実施日十月十　日
参加者七名
10月の月次祭の後、午後から下戸田（西脇病院付近）と上野地区でポスティングをさせて頂きました。ポスティングも極力声かけをして、チラシを直接渡すことを心掛けました。
約1時間程でしたが、皆気持ちよく教会へ戻ってきました。

画像で綴る創立１３０周年記念大会

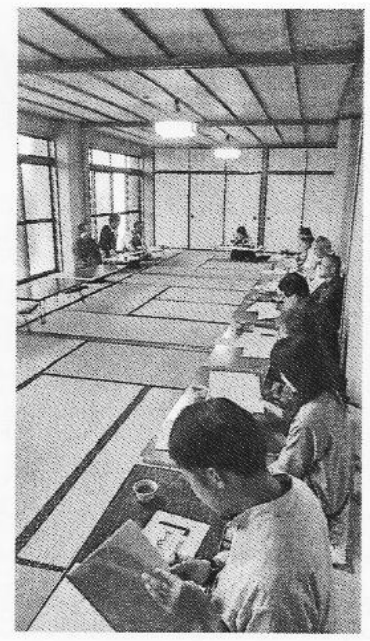
◎「いつも笑顔で！
たすけの輪をひろげよう」
のスローガンのもと記念大会の
骨子が固まり第　回の係別打ち
合せ会議が行われる（９／24）



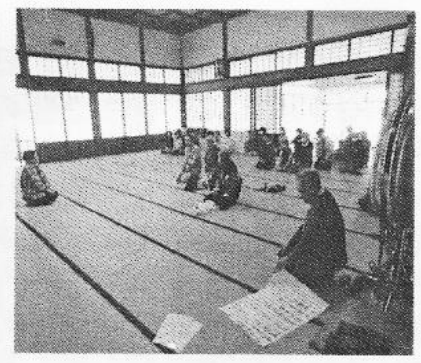
◎おつとめ役割も次第
に決まる

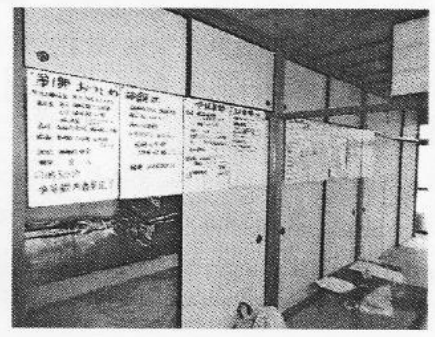


◎役員会打ち合せ会議で細かい
ところにも話し合われる

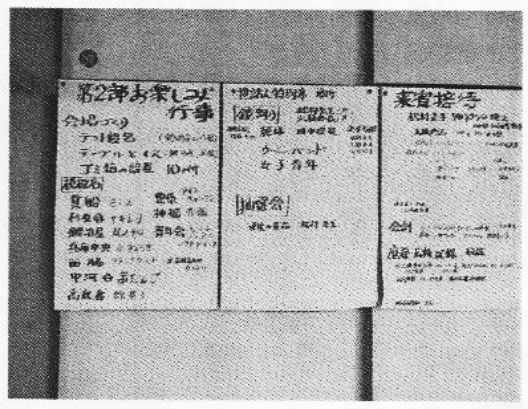


◎総出ひのきしん（10／22）





◎第２部の内容検討

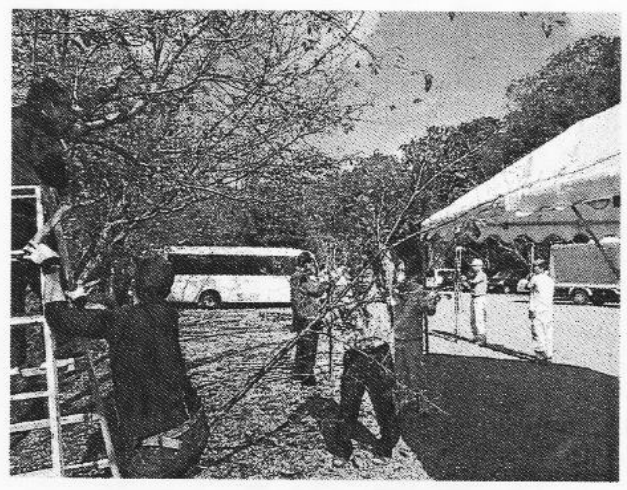


模擬店や抽選の品は？

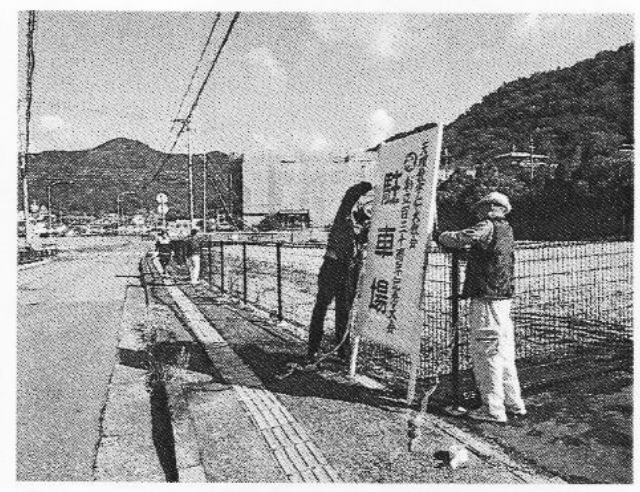
◎打ち合わせ会議（10／24）

◎テント設営等準備着々と

袋詰めされた記念品



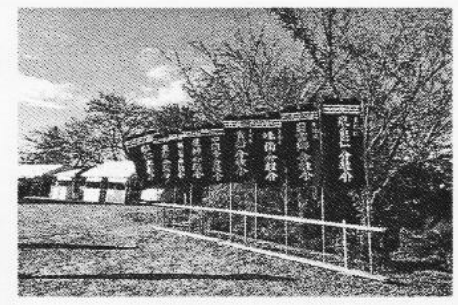
桜の枝　切っていいかな･

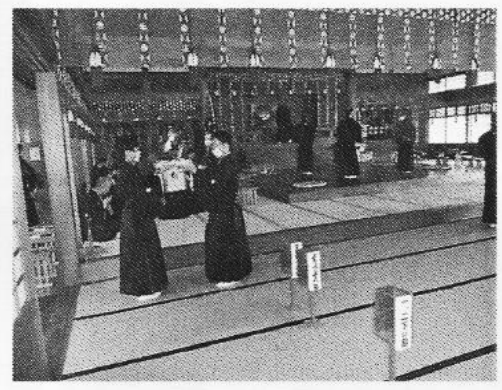


駐車場看板もしっかり固定

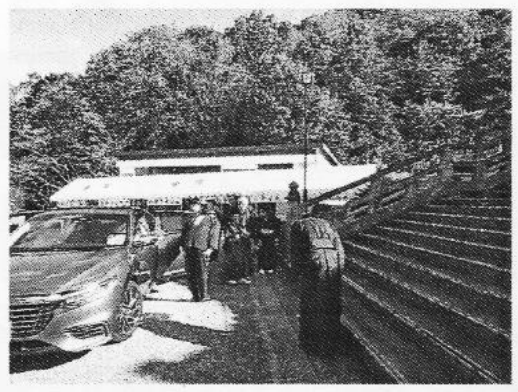
◎記念大会当日！

教会の旗ひらめく中、受付開始

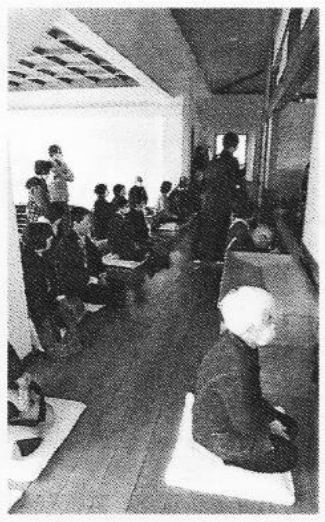




雅楽の音のなか献饌

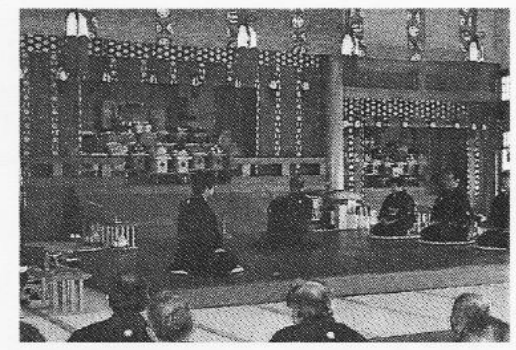


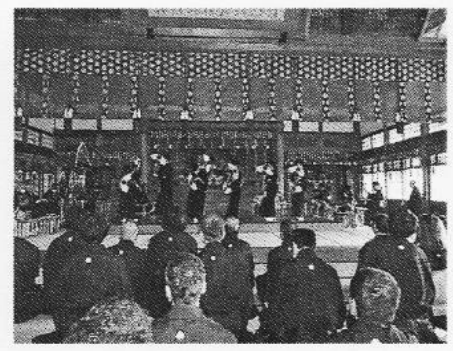
松村先生ご到着

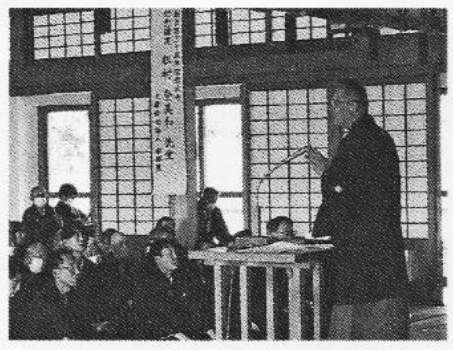


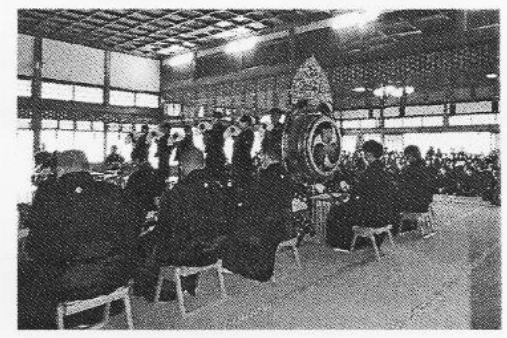
参拝者は廊下にも

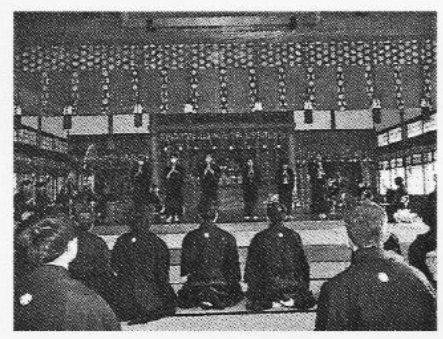
◎祭儀式　おつとめ

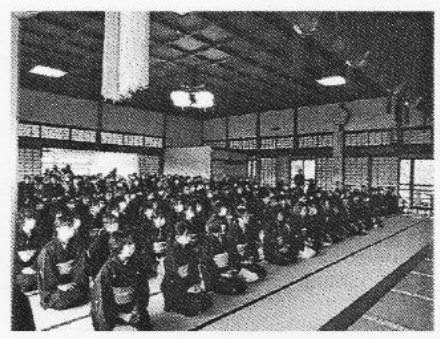


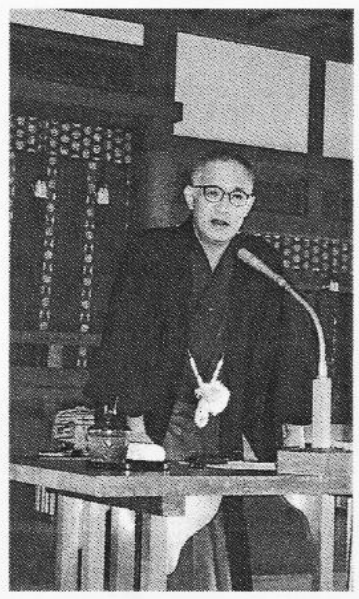




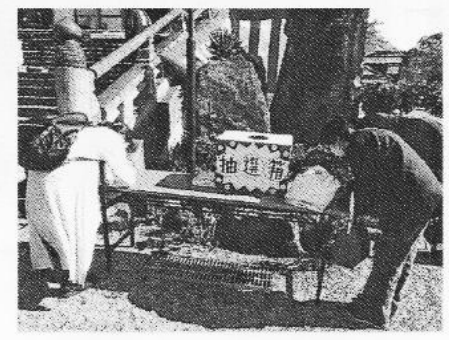




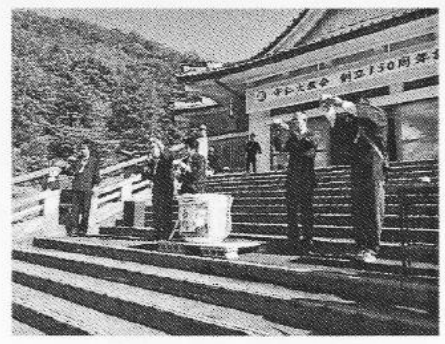




◎お弁当や第２部の準備



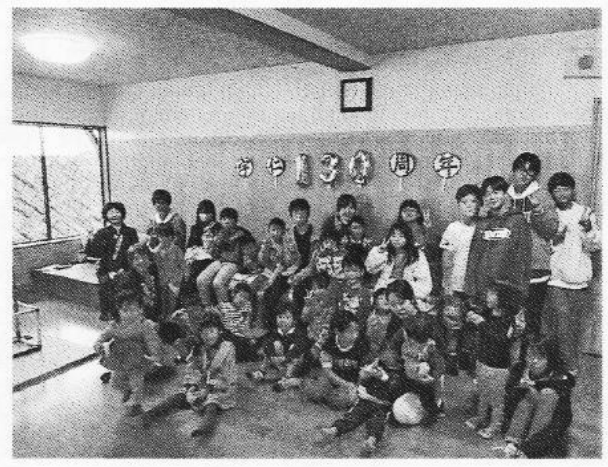
◎一時雨も降るが良いお湿りに



ウーニーバンドも高らかに！

◎記念大会　無事終わる

◎参拝者は約四百十名でした。



キッズルームでは

花を添える女子青年

出店頂いた模擬店

貴　船	おさしみ
杉原谷	焼き鳥
鍛冶屋	焼きそば
兵庫中央	水餃子
西　脇	フランクフルト
中河合	串だんご
高鹿喜	綿菓子
豊　原	アイス
神　福	赤飯、コ　ヒー
青年会	飲み物

教会よりの御供物

日吉郷	各種果物
大西脇	ぶどう
曽我井	新米30kg
殫　神	麦酒
泉東仁	リンゴ（赤）
兵庫中央	パイナップル
小野町	リンゴ（青）
貴　船	鯛
楠　谷	キノコ類

教会よりの御供物

豊　原	みかん
神　福	清酒
中河合	お菓子
西　脇	新米30kg
西津萬	メロン
屋　神	柿
日　下	清酒
國　延	里芋
鍛冶屋	バナナ
高鹿喜	さつま芋

◎月例布教実動　布教部

『教祖のお供をさせて頂く日』
毎月15日　午後1時30分　大教会神殿集合
布教実動（戸別訪問）・ふりかえり
『親神様の神名を世界へ流す日』
毎月24日　午後1時30分頃　大教会神殿集合
神名流し（大教会周辺）

婦人会より

◇大教会炊事当番

12月　神福Ｂ
１月　中河合
２月　豊　原
よろしく
お願いします

おぢば通信（9月・10月）

◎別席の誓い
豊　原　一名

◎おさづけの理拝戴
兵庫中央　笹倉　颯太

◎おびや許し
一組

◎九月帰参者
八十名

◎十月帰参者
五十六名
（詰所調べ）

12月行事予定表

6日　青年会例会
9日　婦人会例会
15日　布教実動日
19日　少年会例会
24日　大教会月次祭
神名流し
女子青年例会
26日　本部月次祭
27日　餅つき、年末ひのきしん
29日　献米団参（青年会）

編集後記

記念大会が盛大に勤められ、久しぶりに顔を合わせた教友とも現況をほんのひと時ですが語り、「次は百四十年祭かなあ。」「それまで生かされときよ。」と笑い合いました。

最近、注意力や記憶力の低下を実感してきました。言い訳になるかもしれませんが、この辺りで編集の作業を後方支援に移らせて頂きます。

時代は様々な分野でデジタル化が急速に進み、また世界的な感染症の流行と合わさりリモートでの取り組みが増えてきました。

宇仁会報の編集も新たな一歩を踏み出すために若いエネルギーを加えてより良いものへと飛躍する時でしょう。

振り返るともう十年以上になります。紙面作りをさせて頂く中、多くの方に支えて頂き叱咤激励を受けつつ続けられたこと感謝申し上げます。

ここらでバトンを・・・

（M・I）